

平成23年12月1日

第93号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



本州最南端のハイマツ林と光岳（静岡・長野県境）
てかりだけ

（撮影者：静岡森林管理署 平田美紗子）

森林・林業の再生は路網整備の推進から

森林整備部 森林整備課・販売課

私と国有林「谷川岳の自然環境と登山者を守る森林保護員」

平成23年度 利根沼田森林管理署 森林保護員 中島 武氏



2011・国際森林年

森林・林業の再生に向けた改革の姿(イメージ)

森林計画制度の見直し

- 森林計画制度の見直しによる適正な施業の確保
- 森林管理・環境保全直接支払制度の導入による集約化推進

路網整備・人材育成

- 丈夫で簡易な路網整備の加速化
- フォレスターなど必要な人材の育成
- 担い手となる林業事業者の育成



森林・林業の再生は

路網整備の推進から

森林整備部 森林整備課・販売課

林業専用道に係る各種検討会等

平成21年12月に策定された「森林・林業再生プラン」の実現に向け、「路網・作業システム検討委員会」の最終とりまとめを踏まえて、森林の整備や木材生産の効率化に必要な「林業専用道作設指針」「森林作業道作設指針」が制定されたところで

路網整備(林業専用道・森林作業道)

林道と林業専用道との大きな違いは、両者とも恒久的な公共施設ではありませんが、林道は不特定多数の者が利用し、森林整備や地域産業の振興等を図る幹線と位置づけられています。これに対し、林業専用道は地形を考慮し、主として特定の者が森林施業のために利用するもので、10ト積トラックや大型ホイールタイプフォワーダ等の林業用車両が、時速15キロ以内で走行できる必要最小限の規格・構造を有する丈夫で簡易な道です。

更に、丸太を効率的に生産・搬出するための搬出路を整備する「森林作業道作設指針」が併せて制定され、林業機械のフォワーダ等2ト積程度が、安全に走行できる森林作業道を設置することとしています。

森林・林業再生プランにおける路網整備を人体に例えるならば、林道は骨格で堅固なものに対し、林業専用道は骨格に柔軟に付帯する動(静)脈です。更に森林作業道は毛細血管

の役割であり、それぞれの役割が健全に機能して初めて血液(木材)が人体末端(市場等)まで行き渡るようになります。

林業専用道技術者等の養成

林野庁では、平成23年5月16日、18日に利根沼田及び群馬森林管理署管内で行った「日本型フォレスター育成研修事業」において、全国の林業専用道の技術者を養成する指導者の検討会を実施しました。

検討会は、森林・林業再生プランの路網・作業システム検討委員会をはじめとする講師から、当局職員3名を含む官民の路網設計の指導的立場である約40名を対象に、講義や現地実習などが行われ、林業専用道に対する認識の共有が図られたところで

関東森林管理局では、これに先立ち1月13日、当局管内の林道事業担当者を集め「林業専用道作設指針」の適用について、打ち合わせを行い、調査設計済路線の線形変更及び規格・構造等の見直しを実施しました。

また、林業専用道技術者等の養成については、林野庁主催で行われた「日本型フォレスター育成研修事業」を踏まえ、8月8日に群馬県沼田市の国有林において第1回林業専用道技術者研修を行い、①「林業専用道作設指針」の概要、森林施業における作業システムに関する基礎知識



森林作業道作設現地研修会での丸太組の実演

と留意点 ②林業専用道の線形及び構造物の必要性を踏まえた現地実習 ③今後に向けた調査設計の考え方を主とした研修を実施し、11月の第4回最終までに県・市町村関係者等55名、調査設計関係者等33名、国有林野事業担当者38名、合わせて126名が受講しています。

この研修は、班編制による実習や発表を中心として、受講生それぞれがその立場や経験も踏まえ、様々な意見を出し合えるディスカッション形式で行いました。受講生からは、コスト削減のポイントや斬新な施工など新しい発想の意見があり、設計や施工意識の向上につながりました。

森林作業道の普及等

「路網・作業システム検討委員会」の最終とりまとめでは、森林の整備や木材生産の効率化に必要な路網と林業機械等を組み合わせた作業方法を導入するうえで不可欠な森林作業道を整備することとしています。

特に、人工林の間伐材を生産・搬出する際のコストを低減させるためには、高性能林業機械の性能を最大限発揮させ、労働生産性を向上させる必要があります。合理的に配置された路網と丸太を搬出するまでの工程全体を通じて人員や機械の配置によって低コストな作業方法を確立することが重要です。

また、作業方法は、事業者、事業地等の条件によって様々な形態が想定されることから、ある程度、共通条件を持つ広がり地域（市町村、流域）で、目標とする作業方法を探求し、路網の整備と機械の導入をセットにした地域ごとの取組が必要となっています。

森林作業道作設現地研修会

国有林野事業では、間伐作業の伐採から搬出までの一連の作業を森林整備事業として発注し、使用する機械に応じた必要最小限の路網を整備することとしています。

そのため、平成23年7月13日、福島県いわき市に所在する磐城森林管理署管内の国有林で、磐城流域いわ

き地区林業活性化センターの主催により、「森林作業道作設指針」に基づく作業道の作設方法について、現地研修会が開催されました。

当日は、局担当官から森林作業道整備の必要性と森林作業道づくりのポイントを説明したのち、路網作設オペレーター養成研修事業の上級指導者である、磐城林業協同組合理事長平子作磨氏の指導により、根株等の支障木を利用した丸太組の実演がありました。

研修には、福島県いわき農林事務所、林業事業体、磐城森林管理署等合わせて57名の参加があり、森林作業道整備の受注者と事業発注者が一堂に参加した研修となり、今後、適切な森林作業道の普及等が期待されます。

平成23年度は、間伐材等の請負事業で580^{キログラム}の整備を予定しており、次の考えに基づき普及することとしています。

森林作業道は間伐をはじめとする森林整備、木材の集材・搬出のため継続的に使用するもので、地形に沿った工法により費用を抑え、経済性を確保し、繰り返し使用に耐え得る丈夫で簡易なものである必要があります。主な内容は次のとおり。

○ 路体は堅固な土構造（構造物を設けない。）を基本とし、地形・地質等の条件から止むを得ない場

合は、丸太や自然石を組んだ構造物を設置することとしています。

○ 路体は、土構造が基本であり、特に水の処理が重要です。そのため、水は安定した尾根、沢に分散して排水するよう波状に設置します。

○ 路線は、地形・地質が安定している箇所を通過するように選定します。

○ 木材の造材や積み込みなどの作業、退避、駐車のためのスペースなど、作業を安全かつ効率的に行うための空間も適切に配置します。

○ フォワード等の林業機械が安全に走行でき、かつ効率的・効果的に作業が進められるよう路網を配置します。

林業専用道をはじめとする路網整備は取り組みを開始したばかりですが、林道、林業専用道、森林作業道それぞれの役割を明確に認識して効果的に組み合わせ、高い生産性を実現する作業システムを想定して路網を整備・普及していく必要があります。



小笠原諸島の国有林野（第3回）

小笠原諸島森林生態系保護地域

小笠原諸島森林生態系保全センター



保護地域の「利用ルール」の導入

小笠原諸島には、他では見られない貴重な野生動植物が生息・生育する森林が多く残されており、小笠原諸島の国有林における特異な森林生態系を後世に残すことを目的に「小笠原諸島森林生態系保護地域」を設定しています。

当センターでは、森林生態系保護地域の保護・管理を進めており、第3回は、この取組についてご紹介します。



サンクチュアリーへの入口

保護地域に観光などにより過剰に立ち入れば、貴重な動植物の生息・生育に支障を及ぼすおそれがあることから、利用と保護の調整を図るための措置として、立ち入ることのできるルートを指定するなど、「利用ルール」を平成20年9月から適用しました。

このルールにより「指定ルート」は、父島12、母島9、南島1ルートとなり、その利用にあたっては、希少な動植物の生息・生育環境の保全と利用に関する講習を受講して入林許可証の交付を受けるか、入林許可証の交付を受けた方（ガイド等）の同行を必要としています。

また、同行者がいる場合は、その人数は10人以内とし、例外として母島の石門は5人、南島は15人以内としています。

更に、一部のルートでは、小笠原固有の鳥であるオガサワラノスリやアカガシラカラスバトの繁殖期（主に11月から3月）については、利用できないこととなっています。

外来動植物の除去等

保護地域の指定ルート入口には、外来動植物の除去装置が設置してあります。これは、靴や衣類に着いた外来植物の種子等を除去するためのマットや粘着テープ、プラナリア対策の酢酸スプレーです。また、母島には希少な陸産貝類が生息しており、重要な保存地域であることから、はじま丸下船時に海水で靴を洗浄する取り組みも行われています。



指定ルート入口の除去装置

アカガシラカラスバトサンクチュアリー

平成15年、父島の東平にアカガシラカラスバトの保護・増殖を目的に約28畝をサンクチュアリーに設定しました。この区域の管理にあたっては、地元ボランティア団体等との協定により実施しています。最近の調査で、アカガシラカラスバトの個体数も徐々に増えていることが報告されています。

水場の設置

母島に生息するアカガシラカラスバト、ハハジマメグロ、オガサワラカワラヒワの保護対策として水場を設置しています。これは、降水量の減少により、これら鳥類の水場が少なくなったことから平成12年から設置しているものですが、これに対し小笠原諸島の世界自然遺産の現地調査を行ったIUCN（国際自然保護連合）の調査員からは、人工物の設置に対して、人為的な介入であり自然の状態を維持することなどの指摘がありました。当面、沢等に水が戻りしだい撤去することで管理を続けています。

世界自然遺産登録後、来島者の増加とともに、指定ルート利用者も増えており、今まで以上の保護・管理対策が必要と考え、取り組んでいます。



水場のハハジマメグロ

水場（陶器製の平鉢）



国際森林年も後半に入り、指導普及課では国内テーマ「森を歩く」にちなんだ取組を実施したので、ご紹介します。

子ども樹木博士認定活動

関東森林管理局では、子どもたちが樹木とふれあいながら、森林や自然を大切にする心を養うことを目的として、毎年2回子ども樹木博士の認定活動を実施しています。

10月6日(木)には、群馬県安中市松井田町にある小根山森林公園で、安中市立細野小学校3・4年生27名を対象に、また11月4日(金)には、関東森林管理局構内で、前橋市立岩神小学校3年生55名を対象に子ども樹木博士認定活動を実施しました。

子どもたちは、森を歩きながら(局は庭園内)葉や樹皮に触れ、樹



大きいケヤキは何cm?



ヒノキの高さを測ってみたよ!



僕は葉っぱの名探偵

18組56名の親子は、職員から樹木を見分ける方法や特徴、由来などを熱心に勉強した後、局内の樹木を巡

親子樹木ラリー

11月5日(土)前橋市立荒牧小学校PTAからの依頼による「親子樹木ラリー」を関東森林管理局で実施しました。



この木の名前はなんだろうな。

全問正解できるかな?

木の由来や特徴などを学んだほか、森林の保水能力を実験する「簡易ライシメーター」を使って、裸地や草地に比べ、森林がたくさんの水を吸い込み、地下水となって流れ出す様子を観察しました。

また、ヒノキの樹高や大きなケヤキの直径を測るなど、普段できない体験に積極的に参加していました。

子どもたちは勉強した樹木を思い出しながら認定試験を受け、全員が樹木博士として認定されました。

国有林野事業見学会

本年度の事業見学会は、国際森林年を記念して、ミシランガイド3ツ星の「高尾山を歩こう」と題して、11月18日(金)に実施しました。

人気の高尾山だけに応募者も多く、抽選の結果40名(当日36名)が参加しました。

年間404万人が訪れるという高尾山は、多くの人々の信仰や森林保護政策により森が守られてきた歴史があります。その歴史を振り返りながら山頂を目指す中で、職員から高



る「樹木ラリー」(15本の樹木を選抜したクイズ形式)へと出発しました。

何度も行ったり来たりを繰り返しながらラリーを制したチームは、次に葉っぱの犯人捜しをする「葉っぱde名探偵」にチャレンジし、次々と名推理を披露してくれました。

見事全員が難問をクリアすると、子どもたちから「楽しかった。」「また局に遊びにきたい。」「など口々に感想が飛びかいました。

尾山の植生や樹木の説明などを受けると、参加者から「何度も来ているけど初めて知ることばかり。」「と驚きの声があがりました。

昼食後、しばしの喧噪を離れ「いろはの森コース」に入ると、昨年度から着手している「安心快適な高尾山モデル事業」の概要や作設した木道等を見学しました。参加者からは「歩きやすくて良い。」「自然のままの山が好きだけど、これだけ人の入る山では、安全の確保や利便性が重要になってくることがわかった。」「など様々な意見が飛びかいました。

また、いろは歌や万葉歌に詠われる樹木に古の思いをはせ、林業の現状では、「自分にもできることはないか。」「今後の森林政策に期待したい。」「国民的議論も必要なのではないか。」「などの意見が出されました。

駆け足での高尾山散策でしたが、参加者全員から「楽しかった。」「また個人でも遊びにきたい。」「との言葉をいただきました。





谷川岳・一ノ倉沢

谷川岳は、上越国境の盟主として、また、百名山の一つとして良く知られている山です。2千メートルにも満たない標高であるにもかかわらず、日本三大岩場の一つといわれる一ノ倉沢の大岩壁や豊富な残雪、稜線付近の高山植物のお花畑などアルペン的な山岳景観の山としても知られています。過去には、この山の持つ厳しい気象条件と峻険な地形が影響し、岩場を中心に遭難者が後を絶たず、800余名の方が谷川岳の周辺で亡くなるという悲しい歴史が物語っています。

私と国有林

「谷川岳の自然環境と

登山者を守る森林保護員」

平成23年度 利根沼田森林管理署森林保護員 中島 武



ブナの林木遺資源保存林

しかし、天候を見極め事前準備をしつかりと整えた上で、ロープウェイを使って天神尾根の一般コースをたどれば2時間半程度の歩行で山頂に立つことができ、高山らしく素晴らしい雰囲気味わうことができるでしょう。近年は、中高年ブームに続き「山ガール」の姿も多くなり、首都圏からも比較的近い場所に位置するため、多くの登山者や観光客でにぎわっています。

このように多くの魅力をもつ谷川岳ですが、山裾に緑豊かなブナの原生林が広がっていることはあまり知られていません。特に一ノ倉沢周辺のブナ林とサワグルミ林の一部は、それぞれ林野庁の「林木遺伝資源保存林」（貴重な樹種の遺伝資源の保

存）（グリーン・サポート・スタッフ）4名（谷川岳班）は、このように自然豊かな谷川岳で7月から10月の間、土・日を中心にパトロール活動を行っています。谷川岳は山城が広く登山道の数も多いため、2名ずつ2チームに別れコースを変えながら巡回を実施し、登山者への案内・指導、気

存を目的に設定）に指定されており、同一地域内で異なる2つの樹種の保存林を見ることが出来ます。また湯桧曾川沿いには希少な原産種のユビソヤナギの溪畔林（川辺の林）が続いており、こちらは、群馬県指定の天然記念物となっています。意外かもしれませんが、谷川岳山麓は貴重な樹種の森の宝庫ともなっています。

私達、森林保護員（愛称「GSS」）（グリーン・サポート・スタッフ）



登山者でにぎわう天神尾根コース



自然観察などを楽しむハイカー

象情報の伝達、登山道や道標の点検補修、植物の季節変化の記録、更に昨年度群馬県内の当地域で初めて確認されたナラ枯れのその後の観察など活動内容には様々なものがあります。

また、今年から、歩行者や自然を守るということで、山麓のハイキングコースとして利用されている国道291号線（旧道）は車輛通行規制の期間が延長になり、歩行者は車や排気ガスを気にせず落ち着いて歩くことができるようになりました。そのためか、森林浴や自然観察を楽しむ新しい利用者層が増えてきて、同時にお客様からGSSに対し、周辺の森林や樹木、自然景観、山の歴史などについての質問も多くなり、会話を交わす機会が増してきました。

その結果、私達自身がおおいにスキルアップすることができ、谷川岳を訪れたお客様から一層喜んでいただくことにやがいを感じています。谷川岳の自然とGSSの業務に携わることができたことに誇りを持ち、感謝しています。



登山道の点検を行うGSS

森づくり最前線

会津森林管理署南会津支署 湯ノ花森林事務所 森林官 伊藤 友和



田代山から帝釈山へ縦走する登山者

私が勤務している湯ノ花森林事務所は、福島県南会津町の館岩地区（旧館岩村）に所在し、約13,300畝の国有林を管理しています。

南会津町の館岩地区は、栃木県境付近に位置しているため関東から多くの観光客が訪れ、春から秋にかけて、登山では田代山（標高1,971m）から帝釈山（標高2,060m）の縦走コースが人気で、山ではきのこやコシアブラなどの山菜、川では溪流釣りで岩魚など数多く自然の味覚を楽しめます。また、冬には国有林内にある会津高原たかつえスキー場、汗をかいたら温泉と四季を通して雄大な自然を楽しむことができます。



田代山から帝釈山に群生するオサバグサが人気

当事務所の業務は、森林パトロールや国有林と民有地の境界管理、立木の被害や伐採箇所の調査などが主な仕事となっています。また、そのような環境の中、森林官1人勤務のため、地元の方々に手伝ってもらっていますが、高齢なためいつまで手伝ってもらえるか、この先どうなるかが悩みの種です。

最近、問題となっている虫害・獣害の調査、対策等も大切な業務であり、日々情報収集に励んでいます。地元の方々から国有林や地域の情報を提供してもらえるので助かっています。

今のところナラ枯れ被害はまだ見られないものの、隣町で確認されていることから注意が必要であり、クマやシカの剥皮被害は小規模ながら管内で確認されており、今後の対策が重要になってきます。

この他、小学校の森林教室や中学・高校の林業体験などの森林環境教育を行っています。森林教室では、森林の役割や土壌の仕組みを実際に見て触れて学習し、林業体験では、幼齢林の雪起こし（春先、雪で倒された植栽木を引き起こし、支柱や縄で支えること。）や間伐、境界管理を説明しながら作業をしました。学校から寄せられた感想では、「山の土地や樹木の管理の仕方や、木を育てる為の手入れの仕方等、作業の大変さと併せて大切さも体験を通して初めて学んだ。」等が書かれてあり、少なからず森林等に関心を持ってくれた様でした。中には、林業体験を通じて、森林官という仕事に興味を持ち、将来なってみたいといった感想もありました。

近年、登山やトレッキング等のレジャーで自然にふれあう人たちは増えたものの林業就労者は減少しているため、このような感想はうれしく感じました。今後も森林環境教育などを通じて子どもたちに森林・林業の大切さを伝えていきたいと思います。

森林官8年生になりましたが、年が経てば経つほど森づくりの奥深さを知り、自分はまだまだだなあと痛感しています。木を見習って毎年少しずつ着実に成長していけるよう努力していきたいと思っています。



芝浦工大柏中学校の林業体験（雪起こし）



南会津高校林業体験（境界管理：測量）

てかりだけ 管内の百名山「光岳」



千頭の山々を背景に、厳かに白く輝く光岩



ミヤマダイヤモンドジソウ

タカネウスユキソウ

以前、この光岳にはもう一つの登山ルートが存在しました。それは静岡森林管理署が管理する寸又左岸林道を進み、林道終点からつり橋を渡って南の尾根伝いに光岳を目指すルートで、本州最南端のハイマツ林を抜けて正面に光岩を眺めながら山頂を目指すことができる短時間で登山可能なルートでした。

残念ながらこのルートは、豪雨により復旧の見込みが立たないほど途中の車道が崩落してしまい、現在は通ることができません。

静岡森林管理署は、この登山者にとって容易に近づき難い「光岳」の貴重な自然環境をしっかりと保全し、これからも次世代に受け継いでいきたいと思ひます。

(静岡森林管理署 広報広聴連絡官 吉澤 英樹)

静岡県と長野県の県境に連なる南アルプス。その南端に位置する光岳（標高2,591㍎）は本州最南端のハイマツ林とライチョウの生育地として知られ、百名山制覇を目指す登山者にとって最終目標とされる山の一つです。

その理由は、他の百名山に比べて歩行距離が長く、登山者にとっては疲労度と難易度が高い点にあります。長野県側からは、易老渡を出発点とし易老岳、センジヶ原を経由して到達するルートが主流で、静岡県側からは畑薙第一ダムから茶臼岳を目指し、茶臼山小屋に一泊、さらに尾根伝いに南下して到達するルートとなっています。いずれも光岳山頂から南に抜ける道はなく、来た道をまた戻らなくてはなりません。

しかしその悪条件を克服した暁には、本州で唯一「原生自然環境保全地域」（人の活動によって影響を受けることなく原生状態を維持している土地等）に指定された千頭の山々を背景に、厳かに、白く輝く光岩を拝むことができます。ここにはタカネウスユキソウやミヤマダイヤモンドジソウが可憐に咲き誇り、私達を歓迎してくれます。



隣のイザルガ岳からの朝焼け

■ ■ 発行所
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159

http://www.mfnaff.go.jp/kanto/introduction/gaiyou_kyoku/hakum-eizan/index.html

来月からは、「管内の一押しスポット」と題し、各森林管理署等の景観のよい穴場スポットや史跡・名勝などをご紹介させていただくこととなります。

これまで、掲載して参りました「管内の百名山」につきましては、こちらでご覧いただけます。



管内の百名山

富士山

谷川岳(一ノ倉沢)

お知らせ